

「黎明期」を振り返って

初代 全国中体連バドミントン専門部委員長

(埼玉栄高等学校バドミントン部 監督)

加藤 勝



全国中学校バドミントン大会が、今年40周年を迎え、次代を担う選手諸君の登竜門として、(財)日本中学校体育連盟、(財)日本バドミントン協会の主催、文部科学省の後援により開催されますことを、心よりお慶び申し上げます。本大会を、今日まで支え育んでくださいました多くの関係各位に厚く御礼申し上げます。また、40周年記念式典を開催してくださいます、現職の中体連関係各位に衷心より感謝申し上げます。

昭和42年、第22回埼玉国体の年に、開催地の越谷市立中央中学校の教員として、私は赴任しました。その頃、近隣どこの中学校にも、バドミントン部はなく「0」からのスタートでした。幸運にも、国民体育大会会場で、その年の中学校市内新人大会を開催することができました。昭和44年、埼玉県の中学校総合体育大会を埼玉県バドミントン協会の主催により、8校で開催することができました。翌年、東京都の池田昌道先生や栃木県の遠井稔男先生などのご尽力により、第1回関東中学生バドミントン大会が栃木県立真岡女子高校体育館で開催されました。この頃、北海道、東北、北陸、近畿などでも中学生のブロック大会を開催しようという機運が高まっていました。同時に、東京、大阪を先頭に北海道、宮城、新潟、石川、熊本などの都道府県バドミントン協会から、日本バドミントン協会へ、全国中学生大会開催の要望が強く寄せられました。

昭和46年、日本バドミントン協会理事の方々のご配慮、並びに東京都バドミントン協会関係各位のご尽力により「第1回全国中学・生バドミントン大会」が、1複2単、男女別都道府県対抗(団体)戦の形式で開催されました。全国に埋もれていたジュニア選手や指導者にとって、待ちに待った記念すべき大会でした。

東京都の駒沢オリンピック公園体育館で開催され男女ともに31チームが出場、男子は滋賀県、女子は大阪府が優勝し、未来に繋がる輝かしい大会が始まりました。第2回の大会は名古屋市、第3回の大会は宇都宮市で開催されました。参加する側の気力も益々高まり、各都道府県バドミントン協会のご支援により、順調に参加チーム数を増加することができました。第4回、第5回大会と、東京都で連続して開催されました。「主催：日本バドミントン協会」に「後援：全国中学校体育連盟」が加わり、男女ともに参加数が少しずつ増加し、35都道府県チームが参加し益々充実した大会に成長しました。

昭和51年、将来、中学生の部活動を教育内活動にするため「文部省試案」が出され、先取りの形で「関東中学・校バドミントン大会」と改め、種目も学校対抗戦・個人戦(ダブルス、シングルス)の形に変更し、関東バドミントン連盟の主催で「関東ブロック中学校大会」を実施しました。他のブロックでも順次、学校対抗戦・個人戦(単・複)の形に移行し発展が見られました。その後、文部省、全国中学校体育連盟の指導を受けて、昭和54年の日本バドミントン協会理事会で、「全国中学校選抜バドミントン大会」実施に向け、ブロック定数が決定されました。昭和55年度より、「優秀な選手は、ブロック予選を経て、年1回に限り全国選抜大会に出場できる」、「開催期間は3日間(72時間以内)とする」「主催は全国中学校体育連盟、後援は文部省とする」ことが決定された。

これを受け、昭和55年度「第10回全国中学校選抜バドミントン大会」が、熊本市で開催されました。初めて教育内活動として認められ、先生方も監督として、「出張」できる大会

となり、協会大会から中体連大会に大きく変わりました。この熊本大会では、出場定数の枠が一部の監督から問題提起されました。前回までの都道府県対抗に比べて、全種目が定数16に縛られ、団体戦の出場数が前年までの都道府県対抗に比して少なくなったためです。個人戦が加えられたことが、評価されなかった。同じように、他の種目でも「全国中学校選抜大会」での問題点がいくつかあり、実施運営に関わる全国中学校体育連盟が競技部を設けました。昭和53年より、関東中体連のバドミントン専門委員長を引き受けていた関係で、私が全国中学校体育連盟バドミントン専門部委員長となりました。

全国中学校体育連盟が主催、ブロック中学校体育連盟が主管する大会が、第11回の奈良県奈良市大会 第12回の新潟県新潟市大会と順次開催されました。各ブロック責任者から、県大会・ブロック大会開催の問題点も出ましたが、年度が重なり大会を経るに従って主管する中学校の先生方が理解を深めていきました。第12回の新潟県大会から参加選手数増員のため、団体戦を2複1単の形式に変えました。昭和58年第13回の山形県新庄市の大会から、出場定数枠が一部拡大されたり、全国中体連競技担当理事及び各ブロック代表による「各

ブロック専門委員長会議」が開催されたりし、全国規模の競技会として改善や拡充が図られました。現在、バドミントン競技部は、全国中体連種目の中で、大会の盛り上がりばかりではなく、「ブロック委員長会議」など、他に類を見ない発展充実ぶりである。これまでの成果は、第2代競技専門部長の佐伯一之先生、第3代競技専門部長の小野理先生のご尽力によるものが、大きいと感謝申し上げます。

更に、全種目開催についての統一・拡充を図る為に、全国中学校体育連盟の理事長だった黒木昊先生のご尽力により、全国中体連の「財団法人化」が昭和60年頃から進められ、現在に至っています。同様に、約15年遅れて全国小学生大会が開催されるようになりました。今後は、小学生、中学生、高校生すべての選手が、心身ともに健康で、競技力の高い選手として育成できる大会を目指し、また、国際大会に繋がる強化を目論んだ選手育成並びに振興組織になるよう、ご尽力いただき益々の発展をお願い申し上げます。

終わりに、40年に亘り、「全国中学校バドミントン大会」開催に、ご支援とご協力を賜りました関係各位に感謝申し上げます。と共に、本大会の成功と今後益々のご発展を祈念し、御礼の言葉と致します。



第4回全国中学生大会



第 4 回全国中学生大会



第 4 回全国中学生大会



第 5 回全国中学生大会



第 6 回全国中学生大会



第 7 回全国中学生大会